

令和3年度 事業報告

エリア	拠点	目標	事業報告
	GH 四季の里	①地域社会で自立した共同生活を送れるよう日常生活上の必要な援助をする。 ②高齢の利用者に対応できるよう、医療機関と連携した支援体制を構築する。 ③利用者が安心して過ごせるよう安全面・衛生面の環境を整える。 ④利用者の権利や人権を守るため関係機関との連携を深める。 ⑤「より質の高い福祉サービスの提供」を心掛ける。	①本人が出来る事を支援する事との線引きをしっかりと考えていく必要があった。どこまでの支援が必要か見極める必要がある。 ②建物上バリアフリーでない為、階段等で介助を行う事も必要であった。又、全て身を任せたい思いが強くなっていた方もおり、トイレ介助、洗濯等、階段での転倒を気を付けた。本人の行動の制限に繋がり、引きこもり状態を作ってしまう事もあった。色んな能力の低下に繋がることも感じた。定期の病院以外も促していたが、他医療機関(内科、胃腸科など)も説明する事が出来れば良かった。医療連携の訪問看護との連携が今一つ活用方法が分からなかった。本人の希望もあるが、連絡が出来る体制はあったがしにくい状態であった。活用方法をしっかりと考えていく必要がある。 ③共有掃除は細かくは入れており一定の衛生面は保っている。個人の居室内については嫌がる方の対応をどうすればいいか。又、夜中に出ていく利用者の方について狭い住宅街の為、車など注意をどの様に促していくか(周りを見ていない方も多いため)。厨房、ごみ置場についてどの様に衛生面を保っていくか検討をしていく。 ④グループホームは他機関(計画相談、通所、医療)との連携をしながら決定が出来ていた。又、利用者の方にこれは報告しないでほしいという言葉を守ることが権利を守る事に繋がるのか、しっかりと議論を行う必要がある。 ⑤利用者さんの性格をみて接することができた。事業所で一人一人の声を聴くために、ミーティングを小グループで行ったり着目した支援を心掛けて行った。一人一人が満足してもらえることが、質の高いサービスに繋がるのではないかしら今後とも考えていきたい。
	あおぞら ワーク	①利用者様の活動が幅広く満足に選択出来る活動・プログラム作り。 ②作業と支援の両立を図る。 ③職種多様な障がい・高齢化に対応出来る体制作り。 ④地域移行を目指し、個人が自立した生活を送る為の支援を行う。 ⑤関係機関との連携をスムーズに行い、地域社会へ送り出す利用者様を増やす。	①年間を通して当初予定していた活動・プログラムがコロナの影響を受け、中止・延期・内容変更を強いられ利用者様に影響を与えてしまった。そんな中でも職員と試行錯誤して少しでも利用者様に喜んでいただけるものを実施しました(あおぞらバザール・あおぞら喫茶・クリスマス会等)。設備面では生活介護活動場にWi-Fi環境を整え、インターネットを活用したプログラムを提供できました。 ②職員退職や産休後の復職延期などに伴い、人手不足の状況が続き、利用者様の支援について希薄な場面がありました。 ③限られた条件の中で出来る限り利用者様を受入れするように事前準備を行い、受入れすることが出来ました。 ④利用者様の生活能力において得手不得手を見極め、個別支援プログラム等で支援を行うことが出来た。 ⑤年度後半ではありましたが新パンフレットが出来上がり、パンフレットを活用した事業所PRを行いました。結果につきましてはR4年度に繋がる見込みです。
四日市	みのり工房	①みのり工房の特色を作り、利用者を選択してもらえる事業所を目指す。 ②利用者の安定した通所の為に支援力の向上を図る。 ③就労支援体制を強化し、利用者のニーズに応じてステップアップできる環境を作る。 ④個々の問題に応じた支援を行い、4年未満での離職を防ぐ。 ⑤地域とのつながりを深め社会的な関わりの機会を作る。	①昨年度は、就労継続B型より、ステップアップして就労移行の利用を希望されて利用される方も3名みえた。特色としては、ステップアップしたい方、そうでない方のニーズに対して選択して事業を利用して頂けた。 ②利用の通所については、コロナウイルスの拡大により通所ができないことが多く伺えた。そのため、不調な方もいたので通所については在宅支援のあり方について考える必要があった。 ③就労支援体制については、障害種別(知的・精神)ごとにプログラムを実施することで、障害特性に配慮したプログラムを提供できた。 ④就労した方のサポートについて、問題が発生した場合は離職者がでないように企業と個人へ介入を行った。昨年度の成果は、利用者10名に対して1名退職された。 ⑤地域とのつながりについて、コロナウイルスの拡大もあった為、外に行く機会が減ってしまったが、少しでも地域に関われるように月一回のポスティング・環境整備を取り入れることで関わりを作る機会ができた。
	オレゴン	①利用者の参加意欲を掻き立てるプログラムの提供と再構築をし、通所率アップにつなげる ②通所すると自分の健康や衛生面を見直すことができる事業所 ③家庭や関係機関とのつながりを構築し、支援の一体化を図る ④利用者が過ごしやすい環境へと事業所を整備する	①コロナ影響を真に受け、内職作業が少なかったが、新作業を年度末ではあるが獲得できた(ポスティング)。ゆったりには初めてWiFiを設置し、YouTubeカラオケ、YouTube視聴などができるようになり、活動の幅が広がった。YouTubeチャンネル、TikTokアカウント開設し動画を配信。スタッフコラムも毎月必ず更新。強度行動障害研修を受けたため、試験的に取り組んでいることを終礼で紹介し、他の職員にも試してもらおうよう伝えている。いろんな取り組みをしている中で変化がある利用者もみえた。 ②入浴支援を毎日行えるようスケジュールを調整した。衛生面が整えば生活面・精神面で安定が図れた利用者もいた。全体プログラムで歯磨き講座を行ったところ、数人に良い影響があった。コロナ勉強会、カラーコーディネート、メイク講座なども行い、普段の生活やファッションに興味を持ってもらえる機会を与えた。 ③送迎を行うことにより、地域の利用者がかかり増加。ドアツードアの送迎のニーズはかなり高い。送迎時に家族の方とお会いすることができ、コミュニケーションをとることができている。自力で通所される方のご家族とはあまり会えない。送迎することにより、通所しやすい環境を整えている。 ④環境整備:浴室、脱衣所の片付け、活動場のイスなどの安全面向上、カーテンの修繕(利用者と共に)ができた。まん延防止期間中に整理整頓を中心に活動場などをすっきりと片付けることができた。

令和3年度 事業報告

	HANA	<p>①幅広いジャンルの部署内外の研修・事例検討会に参加し、知識・スキル等の支援力の向上を図る。 ②地域包括ケアシステム構築のため、感染予防を踏まえたネットワーク作りや社会資源の開発を目指す。 ③計画相談の目的を意識し、利用者の望む生活に向けて質のあるサービスを提供する。 ④精神科病院、救護施設等への地域移行の実績を踏まえ、地域移行支援への理解・啓発につなげる。 ⑤感染対策の徹底と業務の効率化(改善の意識)をもち、話し合える職場環境を目指す。</p>	<p>①HANA主催の事例検討を毎月実施。法人内外の支援機関への出席依頼、関係支援機関への働きかけの機会ともなった。またオンラインでは画面上でのシート共有が課題。研修は社会的復権、依存症への研修参加、オンライン開催が多く参加しやすあり。ファシリテーション力向上に向け来年度研修検討。 ②月1回新規事業所等の情報を整理、他部署へ情報提供を実施。積極的にオンラインを活用しての会議、ネットワーク作りとまではいかなかったが、家族のつらい(広報)が地域事業所とのネットワークづくりに活かされた。 ③アセスメントの手法について9月部署内研修実施。事例検討を通して多様な視点への気づき、アセスメントにつながった。 ④社会的復権の研修を部署内で実施し、長期入院者・入所者の地域移行への理解を深める。地域移行の資料は業務量や新型コロナウイルスの影響もあり完成できず。啓発活動までには至らなかった。 ⑤部署内で話し合いBCP作成中。意見はいいやすい環境だが、主体的に意見といわれると難しい現状。業務の改善意識を各職員がもっていくことは課題であることを共有。</p>
	オーロラ	<p>①安全・安心を与えられる住環境の提供、及び感染症などの対策も行う。 ②虫活にハリが出る取り組みを行う。 ③重大な介護事故を未然に防止できる体制を確立する。</p>	<p>①2月に外部デイを利用している方が陽性になり、脳梗塞の疑いで緊急搬送した方が病院での抗原検査で無症状の陽性者となってしまった。両名とも入院となり、他入居者、職員も濃厚接触者となったが、感染拡大は防げた。 ②コロナ化もあり、行動制限を設けたため寂しいものになったが、秋にはさつまいもを育て、それを天ぷらなどに調理を行い、振舞った。極力入居者も参加型にした。また例年の年末イルミネーションも行き、四季を提供した。 ③重大な介護事故は『ゼロ』であったが、有料だけでなく、他事業所との連携も大事に『利用者中心』を言い続けてはいるが、まだまだな現状であった。(有料だけの責任ではないが)</p>
介護	デイサービス	<p>①「生きがい」を提供出来るプログラム作成を行う。 ②囚トレスを感じさせない介護技術を身につける。 ③重大な介護事故を未然に防止できる体制を確立する。</p>	<p>①日々15名以上の利用者のニーズを完全に受け入れることは不可能ではあるが、日々の変化をつける取り組みは行えた。四季、月ごとに合わせた催しも行ってこれたが、外部からの取り組みはほとんど行えなかった。 ②毎月、会議時に研修や講習は行っているが、通常業務が入浴をまわすことに精一杯になり、必要な介護技術の向上にはつながらなかった。 ③設備面での不具合が生じることはあったが、その都度対応を行い、重大な介護事故は『ゼロ』であった。</p>
	ハッピーランプ	<p>①介護保険制度のもと、利用者一人ひとりのニーズに応じた的確なサービスを提供するため、職員として求められる基礎的なマナー、考え方を全員が共有できるようにする。 ②ストレスを感じさせない介護技術を身につける。 ③重大な介護事故を未然に防止できる体制を確立する。</p>	<p>①職員の個人差により、統一したサービスを前提に行ってはいるが、利用者の個性などもあり様々な不満の声はでることがあった。下記にも記載しているが、介護技術だけでなく接遇なども研修に取り入れていた。 ②毎月のミーティング時にその都度必要なこと(介護技術だけでなく接遇など)を取り入れている。 ③『利用者中心』を心掛けてはいるが、利用者の中にも職員を「試す」方もおり、その言動に振り回されないように情報共有をしっかりと行う必要はある。</p>
	ブナの森 すずか	<p>①利用者支援を丁寧を実施し、支援の質を向上させる。 ②風通しのよい職場作り。 ③住みよい生活環境を提供する。</p>	<p>①昨年度に比べ、職員間で話し合いができた。今後も継続して取り組んでいく。 ②努めることができた。今後も継続していきたい。 ③衛生面は実施できた。設備面は実施できなかったため、来年度に実施していく。</p>
鈴鹿	パートナー	<p>①個別支援と家族支援を意識したサービス提供の実施。 ②他機関、他職種との連携を図り、問題等の早期解決。 ③地域のニーズに沿った事業展開の検討。 ④全職員のスキルの向上及び職員研修の実施。 ⑤人材確保及び養成の充実。 ⑥利用者様の特性に合わせて、環境整備を行う。</p>	<p>①コロナ感染予防に努めながら、ニーズに合わせて実施できた。 ②緊急時に早期対応ができた。 ③検討することが出来た。今後も継続して検討していく。 ④職員個々への指導によりスキル向上につながった。GHへの協力体制のため、研修の機会の確保が難しかった。来年度は機会を増やしていく。 ⑤職員採用は難しかった。今後も継続して人材確保に努める。 ⑥利用者様用のロッカーが利用者様により破損したため、利用者様の特性に合わせたロッカーを設置できた。</p>
	GH いせ	<p>①利用者が生活しやすいように衛生面、安全面に注力する。 ②利用者が楽しんで参加できる健康支援を実施する。 ③利用者のニーズに対応できるように職員のレベルアップを図る。</p>	<p>①利用者、職員共々コロナ感染者もなく、大きな事故や災害により被害もなく支援できた。また、伊勢警察署・消防署の職員を講師に迎え、防犯、防災の講習会を開催した。 ②コロナ禍が落ち着いた時期に、クリスマス会などを実施し、利用者を楽しんでもらったり、散歩など軽度の運動は継続した行った。 ③定期的な職員研修や外部講師を招いての研修などを実施した。また、3か月ごとに虐待研修も行き、職員の意識の向上に努めた。</p>

令和3年度 事業報告

伊勢	はじまり 作業所	<ul style="list-style-type: none"> ①就労移行の利用者の確保と一般就労が出来る環境を作る。 ②工賃アップのため、新規企業の確保。 ③安定した施設外就労の拡充を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ①就労移行1名確保し一般就労に繋げた。1名は企業からの採用を貰っていたが本人が辞退した。 ②新規企業一社確保。③安定して二企業の施設外就労続行。その内の一社より内勤の仕事を確保。
	社の 作業所	<ul style="list-style-type: none"> ①数値目標 新事業として社の作業所の生活介護事業を定員20人で開始し、通所率95%を目指す。 契約者数23名、一日平均19名の通所を目指す。 ②活動内容の充実 幅広く選択でき利用者個々に合わせたメニューの考案。 ③職員のスキルアップ 利用者ニーズを捉え障害に特化した専門的な知識や対応力を身に付け適切な支援と質の高いサービスを提供する。 ④災害・事故対応の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ①年間通所率:102.22% ・新規契約数 28名 ・退所者4名 ・1日平均20.2人 ②個々に合わせたメニューとして、買い物同行や受診の送迎を行った。幅広いメニューの一つとして、レクの充実を考案していたが、コロナ禍のため少人数での活動となり利用者さんが楽しみにしていた屋外での全員揃ってのレクはできなかった。 ③職員が利用者対応で、困っていることや悩んでいること、知りたいことを聞き、その都度、話し合い朝礼や終礼時、部署内会議で解決できるように努めた。研修では情報共有やスキルアップを図った行った。施設外研修はリモートで参加することはあったが、他施設を見学したり実習はできなかった。 ④2か月に1度、防災訓練を実地したが、曜日別での通所利用者が訓練できていないこと、避難場所まで歩けない利用者が多く常備しているリヤカーや車椅子では対応が難しくなっているのが今後の課題である。
	さいい さいど	<ul style="list-style-type: none"> ①利用者障害の特性を理解し出来る作業の獲得 ②豊富な種類の作業提供から御自身で選択して頂き、意欲を高め作業を通し地域社会に貢献して更なる利用者の能力の向上を目指す。 ③安定した通所率の確保をする為、より一層ネットワークの強化を図る。 ④利用者ニーズを的確に捉え、適切な支援と質の高いサービスを提供する 	<ul style="list-style-type: none"> ①営業へ行き利用者が「あれしたい」と言われるような内職作業を新規2社から3種類を獲得できた。 ②選択内容を増やし地域作業である近くのお寺を新規獲得し地域の方との交流も持ち「綺麗にしてくれてありがとう」と直接お客様からの声を聞くことが出来喜ばれていた。 ③不調になり通所出来なくなる前に傾聴したり席の配置を変えたり職員間で常に目配り・気配りを行い暫く休みますと言われる方達に通所して頂く事が出来た。 ④スキルアップ研修や、さいいででの支援に何が必要かを部署会議で出し合い、職員が互いに声を掛け注意し合ったり、またフォローに入ったりと全体で支援を行った。
	ひのき 作業所	<ul style="list-style-type: none"> ①利用者の獲得 ②利用者工賃アップ ③通所し安心できる環境を作る ④職員のスキルアップ 	<ul style="list-style-type: none"> ①営業を実施し見学まではしてもらったがその後が進まないことが多かったが5名の契約をすることができた。 ②内職作業だけでなく、黒にんにくをスーパーに販売し生産回数を増やし少しだが工賃アップすることができた ③利用者個々に合わせた環境をととのえて傾聴、声掛けなどを実施していくことで通所率をアップすることができた ④部署会議で研修を実施し、事例検討会や情報共有をすることでチームワークができた
	よろず	<ul style="list-style-type: none"> ①日人ひとりにあったサービスの提案をしていく 	<p>コロナ禍で対面での対応が困難な時期もあり、電話やオンライン、書面を用いて工夫をし、関係機関と連携しながら、利用者のニーズ把握、サービス提供の調整を行った。しかし、オンライン環境や技術については、より良いサービスの提供のため改善が必要な部分もある。地域に開所した新たな事業所へは出向き見学した。適したサービスの利用に繋がるようにサービス利用の提案と情報提供を行った。設定されたモニタリング頻度以上に対応が必要と判断された利用者に対しては、頻度について行政に相談し、きめ細かい対応ができる体制をとった。</p>
志摩	グルー プ ホーム 志摩	<ul style="list-style-type: none"> ①虫活の質と満足度を上げる。 ②職員のスキルアップとチームワークの構築。 ③地域に根付いた安全なグループホーム作り。 ④各グループホームの待機者確保 	<ul style="list-style-type: none"> ①外出制限が続く中、夏祭りが好評で来年もとの声が多かった。季節ごとに敷地内で育てた野菜を食事提供した。 ②新年度の部屋替えに向け、担当外の利用者を広く知るため支援に関わる機会を作った ③地域の防災訓練や日帰り旅行が中止となったが、挨拶やゴミ出しなど近隣との良好な関係が維持できるよう心掛けた。 ④待機者リストの方より緊急入居を受け入れるケースが多く、計画相談事業所と協力して早めの見学体験と申し込みを勧めた。
	これから 作業所	<ul style="list-style-type: none"> ①就労継続A型利用者から一般就労を支援していく ②作業収入を増やし、工賃への還元を充実させる 	<ul style="list-style-type: none"> ①3人名の利用者が障害枠での一般就労することができた ②平均工賃を8,635円から10,195円に増やすことができた
保育	どんぐり 保育園	<ul style="list-style-type: none"> ①職員の組織化と育成。 ②保育内容の充実。 ③子ども、保護者支援の強化。 ④保育園と地域との連携。 ⑤事故災害時の適切な対応と環境整備。 	<ul style="list-style-type: none"> ①年度途中で、副園長を迎え職員体制の充実を目指し進めることが出来たが育成と言う部分ではまだ、課題も残っているため、次年度に向けて取り組み。 ②コロナ禍ということもあり前年度以上に行事の取り組みが出来なかつたり、縮小となった。その中でも園児たちが楽しい時間を過ごせるよう計画をたて進めることが出来た。 ③支援児も年々増え、職員間で話し合いの場を持ちより良い環境づくりに努めた。また保護者支援に於いては、面談の確保も随時取りながら進めることができた。 ④コロナ禍で十分な時間確保が出来なかった。 ⑤園児の怪我が多かったので反省する。災害対策などの訓練は毎月の計画に沿って進めることが出来た。